

令和3年度 手話通訳学科 シラバス (授業計画)

学 年	1年生 (32期)	授業科目	言語学		時間数	30 時間
担当教員	岩崎 加奈絵	履修分類	基礎科目	科目分類	言語	

【授業概要】 言語学という「ことば」を対象とした学問が、どのように「ことば」を分析し考察するか、言語学の代表的な各分野の扱う事象を具体的に上げつつ、いろいろな切り口を知る。また、「なぜ」そうした切り口や考えが重要なのかをしっかりと考える。

【到達目標】 言語学の基礎知識を用いた議論に参加できる

【授業内容 (予定)】

1	(「日本語」のテスト返却・解説)
2	イントロダクション：言語学の「範囲」
3	言語は記号である
4	言語は体系である
5	語は何からできているか①：構成要素
6	語は何からできているか②：語の性質
7	文は何からできているか①：文法を語るための概念
8	文は何からできているか②：文の構造
9	身近な文法現象
10	言語は「意味」を持つ
11	「意味」は解釈される
12	言語は「変化」する
13	言語は「分類」される
14	これまでのまとめ：ハワイ語を事例に
15	総括、質疑応答、レポート課題について

【評価方法】 レポート

【教科書】 なし

【授業の形式と教員紹介】 講義  
中央大学非常勤講師 (聴者)、博士 (文学・東京大学)

令和3年度 手話通訳学科 シラバス (授業計画)

学 年	1年生 (32期)	授業科目	応用言語学		時間数	16 時間
担当教員	市田 泰弘	履修分類	基礎科目	科目分類	言語	

【授業概要】 言語への理解を深めるために、応用言語学の基礎を学ぶ。  
テキスト『ことばの力学』にもとづいて学生が発表し、ディスカッションを行う。

【到達目標】 応用言語学の基礎の知識を活用した議論に参加できる

【授業内容 (予定)】

1	標準語と方言
2	国家と言語
3	バイリンガルは悪か
4	外国語教育
5	手話と言語
6	言語と文化
7	無意識への働きかけ—政治・メディアのことば、法と言語
8	言語障害、言語情報処理はどこまで来たか

【評価方法】 授業内での発表とレポート

【教科書】『ことばの力学』(岩波新書)

【授業の形式と教員紹介】 輪読と発表およびディスカッション  
手話通訳学科専任教官 (手話通訳士)

令和3年度 手話通訳学科 シラバス (授業計画)

学 年	1年生 (32期)	授業科目	日本語		時間数	30 時間
担当教員	岩崎 加奈絵	履修分類	基礎科目	科目分類	言語	

【授業概要】 手話通訳士試験の筆記科目「国語」で、合格点を取ることを目標とする。  
それと同時に、日常使用している言語としての日本語を、分析的に理解する視点を得ることを目的とする。  
基本的には講義形式だが、できるだけ対話をしながら進めたいので、気軽に発言してもらいたい。

【到達目標】 手話通訳士試験の筆記科目「国語」で、合格点を取る

【授業内容 (予定)】

1	イントロダクション—手話通訳士の「国語」とは？
2	音声器官と音声記号—IPAに学ぶ音の作り方
3	日本語の音①—"50音"の成り立ち
4	日本語の音②—特殊な「音」
5	音声と音韻—音声と音素、音節とモーラ
6	敬語表現—「敬語の指針」に学ぶ
7	アクセント①—アクセントの捉え方
8	アクセント②—共通アクセント
9	語①—品詞と活用
10	語②—語の種類：漢語、和語、外来語
11	語構成—熟語の構造、複合語とは？
12	漢字—読み・部首・送り仮名
13	表記法—仮名遣い
14	文—文節、文の構造、「文章」へ
15	読解の演習とポイント

【評価方法】 小テスト、模擬テスト

【教科書】 なし

【授業の形式と教員紹介】 講義  
中央大学非常勤講師 (聴者)、博士 (文学・東京大学)

令和3年度 手話通訳学科 シラバス (授業計画)

学 年	1年生 (32期)	授業科目	文化人類学		時間数	30 時間
担当教員	吉田 優貴	履修分類	基礎科目	科目分類	社会	

【授業概要】 ・通訳者の資質としての「異文化理解」の基盤をつくる。  
 ・「人類学的に物事を考える経験」を通して、自分の凝り固まった思い込みやその後の経験の仕方を変えていくことをめざす。  
 ・中間レポートでブックレビューを課す (サイド, エドワード・W., 1993, 『オリエンタリズム』 (上・下), 今沢紀子 (訳), 平凡社 (平凡社ライブラリー) ) 。

【到達目標】 異文化理解を求められる場面での人類学的な考え方にもとづいた議論に参加できる

【授業内容 (予定)】

1	オリエンテーション：人類学する
2	「子供」と「大人」①
3	「子供」と「大人」②
4	「人種」・「部族」・「民族」①
5	「人種」・「部族」・「民族」②
6	「人種」・「部族」・「民族」③
7	「言語」とコミュニケーション①
8	「言語」とコミュニケーション②
9	「言語」とコミュニケーション③
10	コミュニケーションとからだ①
11	コミュニケーションとからだ②
12	コミュニケーションとからだ③
13	食と環境①
14	食と環境②
15	期末試験

【評価方法】 中間レポートと期末試験による

【教科書】 なし

【授業の形式と教員紹介】 講義

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所研究機関研究員 (聴者)、博士 (社会学・一橋大学)

令和3年度 手話通訳学科 シラバス (授業計画)

学 年	1-2年生合同 (31期・32期)	授業科目	社会学		時間数	16 時間
担当教員	高嶋 由布子	履修分類	基礎科目	科目分類	社会	

【授業概要】 社会学の基礎的な概念、障害と言語を取り巻く議論を学ぶことを通して、手話・聴覚障害者を取りまく問題を客観的に理解する方法を身につけ、分析的に理解できるようになる

【到達目標】 手話・聴覚障害者を取りまく問題について、社会学の基礎的な概念を用いた議論に参加できる

【授業内容 (予定)】

1	イントロダクション：社会学の問題設定、手話の社会的状況について (グループワーク)
2	社会学概説①：社会学とは、社会と個人
3	社会学概説②：マイノリティ、障害者、差別の構造
4	社会福祉学：障害者と社会、優生保護法
5	手話の社会言語学①：手話は誰のものか、言語発達、バイリンガル
6	手話の社会学：障害者運動、手話言語条例、言語権
7	手話の社会言語学②：コミュニケーションの秩序、手話通訳と障害者差別解消法
8	まとめのディスカッション (グループワーク)

【評価方法】 レポート

【教科書】 なし

【授業の形式と教員紹介】 講義形式。最終回はグループワーク  
 国立障害者リハビリテーションセンター研究所流動研究員 (聴者)、博士 (人間・環境学・京都大学)

令和3年度 手話通訳学科 シラバス (授業計画)

学 年	1年生 (32期)	授業科目	現代社会		時間数	30 時間
担当教員	市田 泰弘	履修分類	基礎科目	科目分類	社会	

【授業概要】 通訳者の資質として必要な知識を習得する。  
現代社会を理解するためには縦軸としての歴史と横軸としての地理（地政学）が重要であるとの観点から、世界史・日本史と地理について、テーマ別の通史を繰り返すことによって、理解を深める

【到達目標】 世界史と日本史について、特定のテーマに沿って自分のことばで説明できるようになる

【授業内容 (予定)】

1	世界史と地理 (政治体制：古代～中世)
2	世界史と地理 (政治体制：近世～近代)
3	日本史と地理 (政治体制：古代～近世)
4	日本史と地理 (政治体制：近代)
5	世界史と地理 (インフラ：古代～近世)
6	世界史と地理 (インフラ：近代)
7	日本史と地理 (インフラ：古代～近世)
8	日本史と地理 (インフラ：近代)
9	世界史と地理 (経済)
10	世界史と地理 (宗教)
11	現代社会 (政治)
12	現代社会 (経済)
13	現代社会 (法律)
14	現代社会 (時事①)
15	現代社会 (時事②)

【評価方法】 テーマごと時代区分ごとに小テストを行い、基準に満たないものには再テストを課して、確実な理解・定着につなげる

【教科書】 なし

【授業の形式と教員紹介】 講義と小テスト  
手話通訳学科専任教官 (手話通訳士)

令和3年度 手話通訳学科 シラバス (授業計画)

学 年	1年生 (32期)	授業科目	リハビリテーション概論		時間数	14 時間
担当教員	江原 こう平	履修分類	基礎科目	科目分類	知識	

【授業概要】 障がいがあるということは、どういうことか、障がいの理念とリハビリテーションに影響を与えた自立生活運動について学び、障がい分類がICIDHからICFへと変わった経緯、それぞれの視点について理解する。また、リハビリテーションの4つの分類、リハビリテーションにかかわる専門職について学ぶとともに、全人的リハビリテーションについて理解する。

【到達目標】 障がいがあるということは、どういうことか、障がいによって発生する生活課題の解決にはどのような介入やリハビリテーションが必要か考えることができるようになる。また、社会に戻ることに様々な障壁がある事例を通して、リハビリテーションの概念とともにハビリテーション（社会参加、新しい能力の獲得）という視点が持てるようになることを目標とする。

【授業内容 (予定)】

1	リハビリテーションの概念
2	リハビリテーションの歴史
3	ICIDHとICF
4	医学的リハビリテーション
5	教育的リハビリテーション
6	職業的リハビリテーション
7	社会的リハビリテーション

【評価方法】

毎回講義終了後に提出するリアクションペーパーおよび講義への参加姿勢、レポート課題により評価する。

【教科書】

特に指定しない。毎回、スライドや資料を提供する。

【授業の形式と教員紹介】

基本的には、パワーポイントで作成した資料を基に行う講義形式で実施する。適宜、グループ学習や調べ学習を導入し、発言を求めることもある。

手話通訳学科専任教官（手話通訳士）

令和3年度 手話通訳学科 シラバス (授業計画)

学 年	1年生 (32期)	授業科目	社会福祉概論		時間数	16 時間
担当教員	江原 こう平	履修分類	基礎科目	科目分類	知識	

【授業概要】

社会福祉の理念と価値、歴史を学び、社会福祉とは何か、何を指すのか、その究極の目的は何かなど、社会福祉の本質について理解する。高齢化、少子化の進む日本における社会福祉の課題について、高齢者福祉、児童福祉、女性・家族福祉、障がい福祉の観点から総合的に学ぶ。

【到達目標】

わが国の社会福祉制度の発展過程を社会的、歴史的、経済的背景をふまえて学び、国内外の制度や歴史、資源、具体的手段について理解する。現在社会におけるニーズや社会問題を知り、その解決のための制度や政策、地域社会に求められる役割や機能について理解する。

【授業内容 (予定)】

1	社会福祉とは？
2	社会福祉の歴史
3	社会福祉の対象と法制度 (公的扶助・児童福祉)
4	社会福祉の対象と法制度 (障害者福祉)
5	社会福祉の対象と法制度 (高齢者福祉)
6	地域を基盤とした福祉 (地域福祉)
7	ソーシャルワーク
8	福祉社会の現代的課題と連携

【評価方法】

毎回講義終了後に提出するリアクションペーパーおよび講義への参加姿勢、レポート課題により評価する。

【教科書】

特に指定しない。毎回、スライドや資料を提供する。

【授業の形式と教員紹介】

基本的には、パワーポイントで作成した資料を基に行う講義形式で実施する。適宜、グループ学習や調べ学習を導入し、発言を求めることもある。

手話通訳学科専任教員 (手話通訳士)

令和3年度 手話通訳学科 シラバス (授業計画)

学 年	1年生 (32期)	授業科目	法学概論		時間数	16 時間
担当教員	田門 浩	履修分類	基礎科目	科目分類	知識	

【授業概要】手話通訳に必要な法学に関する実践的な基本知識を学ぶ。  
最終回で、模擬裁判を行う。

【到達目標】 法学の基本用語について、その意味や意義を説明できる。

【授業内容 (予定)】

1	刑事訴訟手続①：警察と検察
2	刑事訴訟手続②：逮捕～拘留、取り調べと手話通訳
3	刑事訴訟手続③：刑事裁判
4	刑事訴訟手続④：証拠調手続
5	司法通訳倫理①：司法通訳人の役割
6	司法通訳倫理②：「司法通訳倫理原則 (案)」
7	裁判員制度
8	模擬裁判

【評価方法】 用語の理解を問う小テスト、ディスカッションにおける発表

【教科書】 なし

【授業の形式と教員紹介】 講義形式。最終回で模擬裁判を行う  
弁護士 (ろう者)

令和3年度 手話通訳学科 シラバス (授業計画)

学 年	1年生 (32期)	授業科目	医学概論		時間数	10 時間
担当教員	田崎 ゆき	履修分類	基礎科目	科目分類	知識	

【授業概要】 コミュニティ通訳でいちばん多いのは「医療場面」における通訳である。医療通訳を行うにあたり、通訳者として必要な知識を身につける。

【到達目標】 医学の基本的な用語について、その意味や意義について説明することができる

【授業内容 (予定)】

1	病院のしくみ (医療機関とは、保険医療と自費医療など)
2	からだのしくみと病気 1 骨と筋肉、皮膚
3	からだのしくみと病気 2 脳神経、循環器
4	からだのしくみと病気 3 消化器、内分泌、泌尿器
5	病気、検査、薬 (処方箋含む)
【評価方法】 用語の理解を問う小テスト	
【教科書】 なし	

令和3年度 手話通訳学科 シラバス (授業計画)

学 年	1年生 (32期)	授業科目	情報リテラシー		時間数	16 時間
担当教員	市田 泰弘	履修分類	基礎科目	科目分類	表現	

【授業概要】 Windows/パソコンを用いて、その基本操作について学ぶ。基本アプリケーションやインターネットサービスを用いた問題解決課題に対して、インターネットでの検索も含めて自力で解決できる力を身につける

【到達目標】 パソコンの基本操作ができるようになる  
基本アプリケーションを用いて問題解決ができるようになる  
インターネットのしくみとその活用法について理解し、実際に活用できるようになる

【授業内容 (予定)】

1	パソコンの基本操作
2	パソコンの基本アプリケーションの使い方 (ワード、エクセル)
3	パソコンの基本アプリケーションの使い方 (パワーポイント)
4	パソコンの基本アプリケーションの使い方 (画像・動画編集ソフト)
5	インターネットのしくみと活用法 (メール、SNS)
6	インターネットのしくみと活用法 (検索エンジン、クラウドサービス)
7	インターネットのしくみと活用法 (動画共有サイト)
8	インターネットのしくみと活用法 (ホームページ、ブログ)

【評価方法】 基本用語の理解を問う小テスト、問題解決課題の小テスト

【教科書】 なし

【授業の形式と教員紹介】 個別学習室で一人一台のPCを用いて、実際に作業を行いながら授業を進める。  
手話通訳学科専任教員 (手話通訳士)

令和3年度 手話通訳学科 シラバス (授業計画)

学 年	1年生 (32期)	授業科目	身体表現論		時間数	26 時間
担当教員	丸橋 広実	履修分類	基礎科目	科目分類	表現	

【授業概要】 インド舞踊の型としての感情表現や手の表記を学び、身体を使って踊ることで、人に伝達する方法の幅を広げる

【到達目標】 観客の前でインド舞踊を通して身体表現ができる

【授業内容 (予定)】

1	ムドラー (24の手の表記) を学ぶ
2	アビナヤ (9つの顔の表現) を学ぶ。
3	アダウ (踊りの基礎のステップ) を学ぶ
4	創作舞踊に挑戦する
5	創作舞踊に挑戦する
6	創作舞踊に挑戦する
7	創作舞踊に挑戦する
8	創作舞踊に挑戦する
9	創作舞踊に挑戦する
10	衣装合わせ + 写真撮影
11	創作舞踊に挑戦する
12	リハーサル
13	発表 7/21 (水)

【評価方法】 通常の練習や発表会における態度と技能の習得の達成度にもとづき評価する

【教科書】 なし

【授業の形式と教員紹介】 授業回数 12回 (2グループ×12回) 発表1回  
舞踊家 (聴者)、インド舞踊講師、ヨーガとジャイロキネシスのインストラクター